

03 聽經典
學日文

夏目漱石

坊ちゃん

—— 少爺

3

一天一句，中日對照，
人性修羅場與究極吐槽術

QR Code

山田社

夏目漱石

一天一句，中日對照，
人性修羅場與
究極吐槽術！

夏目漱石 著
雅琪 譯

坊ちゃん^{少爺} 3



1 整段課文

Track 001



君釣(つ)りに行きませんかと赤シャツがおれに聞いた。赤シャツは気味の悪(わ)るいように優しい声を出す男である。まるで男だか女だか分(わか)りゃしない。男なら男らしい声を出すもんだ。ことに大学卒業生じゃないか。物理学校でさえおれくらいな声が出るのに、文学士がこれじゃ見っともない。

逐句翻譯

1 君釣^{きみ つ}りに行きませんかと赤^{あか}シャツがおれに聞^きいた。

那「紅襯衫」湊了過來，細聲細氣地問道：「閣下可有雅興，同去垂釣一番？」

| 【單字】

釣りに行く 去釣魚 • 赤シャツ 紅襯衫 (人物暱稱)

2 赤^{あか}シャツは気味の悪^{き み わ}るいように優^{やさ}しい声^{こえ}を出^だす男^{おとこ}である。

這廝說起話來，嗓音柔膩得令人骨頭髮軟，心裡頭直泛惡寒。

| 【單字】

気味が悪い 令人不舒服、毛骨悚然 • 優しい声 溫柔的聲音

3 まるで男^{おとこ}だか女^{おんな}だか分^{わか}りゃしない。

那聲氣，簡直雌雄莫辨，不陰不陽。

| 【單字】

まるで 簡直、完全 • 分りゃしない 根本分不清楚

4

男^{おとこ}なら男^{おとこ}らしい声^{こえ}を出^だすもんだ。

既是個爺們，合該有副頂天立地的響亮嗓門才是。

【單字】

男らしい 有男子氣概的 • 声を出す 發出聲音

5

ことに大学卒業生^{だいがくそつぎょうせい}じゃないか。

更何況，這廝還掛著個堂堂「大學卒業」的名頭！

【單字】

ことに 況且、更何況

6

物理学校^{ぶつり がっこう}でさえおれくらいな声^{こえ}が出^でるのに、文学士^{ぶんがくし}がこれ
じゃ見^みつともない。

想我那物理學校出身的，喉嚨尚且比他壯實幾分；這勞什子「文學士」竟是這副寒傴模樣，真真是有辱門楣，教人看了臉紅。

【單字】

文学士 文學士（大學文科學位） • 見つともない 丟臉、難看

2 整段課文

Track 002



おれはそうですなあと少し進まない返事をしたら、君釣をした
事がありますかと失敬な事を聞く。あんまりないが、子供の時、
小梅（こうめ）の釣堀（つりぼり）で鮒（ふな）を三匹（びき）釣っ
た事がある。それから神楽坂（かぐらざか）の毘沙門（びしゃもん）
の縁日（えんにち）で八寸ばかりの鯉（こい）を針で引っかけて、
しめたと思ったら、ぽちゃりと落としてしまったが、

- 1 | おれはそうすなあと少し進まない返事をしたら、君釣をした事がありますかと失敬な事を聞く。

我拿捏著腔調，不冷不熱地敷衍了一句：「再說罷。」誰料這廝竟這般失了禮數，劈頭拋來一句：「閣下可曾試過垂釣的滋味？」

【單字】

進まない 不積極、勉強應付 • 失敬 失禮、無禮

- 2 | あんまりないが、子供の時、小梅の釣堀で鮒を三匹釣った事がある。

我心裡盤算：雖說不曾正經釣過，可打小在小梅那處釣魚池，也曾手到擒來過三條鮒魚。

【單字】

釣堀 釣魚池 • 鮒 鯽魚

- 3 | それから神楽坂の毘沙門の縁日で八寸ばかりの鯉を針で引っかけて、しめたと思ったら、ぽちゃりと落としてしまったが、

再說那回在神樂坂毘沙門的廟會節慶，用鉤子掛住一條八寸來長的錦鯉，眼瞅著這遭是穩操勝券了，哪知「撲通」一聲，那魚兒竟滑進水裡溜了去——。

【單字】

縁日 寺廟節慶市集 • しめた 太好了！（得意時的感嘆詞） • ぽちゃりと 撲通一聲（落入水中的聲音）



これは今考えても惜(お)しいと云(い)ったら、赤シャツは顎(あご)を前の方へ突(つ)き出してホホホホと笑った。何もそう気取って笑わなくっても、よさそうな者だ。「それじゃ、まだ釣りの味は分らんですな。お望みならちと伝授しましょう」とすこぶる得意である。だれがご伝授をうけるものか。

逐句翻譯

1 | これは今^{いまかんが}考えても惜^おしいと云^いったら、赤^{あか}シャツは顎^{あご}を前^{まえ}の方^{ほう}へ突^つき出^だしてホホホホと笑^{わら}った。

這事兒即便如今想起來，仍覺可惜得緊。那紅襯衫聽罷，把下巴頰往前一挺，嘴裡「呵呵呵呵」地乾笑起來。

| 【單字】

惜しい 可惜、遺憾 • 顎を突き出 把下巴往前伸出

2 | 何^{なに}もそう気^き取^どって笑^{わら}わなくっても、よ^よさ^さそ^そう^うな^な者^{もの}だ。

笑便笑罷，偏要裝出一副文人雅士、拿腔作調的模樣。

| 【單字】

何もそう 何必那樣、不必如此（後接否定，表示「不用那麼～也無妨」） • 気取る 裝模作樣、擺架子 • よさそう 用不著、沒必要

3 | 「それじゃ、まだ^つ釣^{あじ}りの味^{わか}は分^{わか}ら^らん^んです^すな。

「看來閣下還未參透這垂釣的箇中三昧。

| 【單字】

まだ 還、尚未 • 分らん 不懂、參不透（「分からない」的口語形）

4

お望^{のぞ}みならちと伝授^{でんじゅ}しましょう」とすこぶる得意^{とくい}である。

若是有意，某家倒可指點一二。」說罷，臉上自鳴得意之色，溢於言表。

【單字】

伝授する 傳授、指點 • すこぶる得意 非常得意洋洋

5

だれがご伝授^{でんじゅ}をうけるものか。

呸！誰稀罕領你這份情！

【單字】

うける 接受、領受 • ものか 才不～呢、哪會～（強烈否定、反問語氣）

4 整段課文

Track 004



一体釣や獵(りょう)をする連中はみんな不人情な人間ばかりだ。不人情でなくて、殺生(せっしょう)をして喜ぶ訳がない。魚だって、鳥だって殺されるより生きてる方が楽に極(き)まってる。釣や獵をしなくっちゃ活計(かつけい)がたたないなら格別だが、何不足なく暮(くら)している上に、生き物を殺さなくっちゃ寝られないなんて贅沢(ぜいたく)な話だ。こう思ったが向(むこ)うは文学士だけに口が達者だから、議論じゃ叶(かな)わないと思って、だまってた。

逐句翻譯

1

一体釣^{いったいつり}や獵^{りょう}をする連中^{れんちゅう}はみんな不人情^{ふ、にんじょう}な人間^{にんげん}ばかりだ。

依我看，這世上凡是好釣魚打獵的那起子人，骨子裡全沒一個厚道胚子。

【單字】

不人情な 無情的、冷酷的、沒有憐憫心的

2 不人情でなくって、殺生をして喜ぶ訳がない。

若非生性涼薄，哪有把殺生當作樂子的道理？

【單字】

殺生 殺生（傷害生命之行為） • 訳がない 不可能、沒有道理

3 魚だって、鳥だって殺されるより生きてる方が楽に極まっている。

魚也罷，鳥也罷，活著總比挨刀來得舒坦，這是明擺著的事。

【單字】

楽 舒坦、輕鬆 • 極まっている 極其、到了極點

4 釣や獵をしなくっちゃ活計がたたないなら格別だが、何不足なく暮している上に、生き物を殺さなくっちゃ寝られないなんて贅沢な話だ。

若說為了餬口度日，那倒也罷了；偏生這起子人衣食無憂，卻非殺生方能安枕，這簡直是奢侈到了極處！

【單字】

活計がたたない 無法維持生計 • 格別 另當別論、例外 • 贅沢 奢侈、過分

5 こう思ったが向うは文学士だけに口が達者だから、議論じゃ叶わないと思って、だまってた。

我心裡雖這般盤算，奈何那廝是個文學士，要嘴皮子少爺我斷不是他的對手，索性閉口不言，落個耳根清靜。

【單字】

口が達者 口才好、能說會道 • 叶わない 敵不過、比不上、爭不過（此處指口才上爭不過） • だまってた 保持沉默、閉口不言



すると先生このおれを降参させたと疋違(かんちが)いして、早速伝授しましょう。おひまなら、今日どうです、いっしょに行っちゃ。吉川(よしかわ)君と二人(ふたり)ぎりじゃ、淋(さむ)しいから、来たまえとしきりに勧める。吉川君というのは画学の教師で例の野だいこの事だ。

この野だは、どういう了見(りょうけん)だか、赤シャツのうちへ朝夕出入(でいり)して、どこへでも随行(ずいこう)して行(ゆ)く。まるで同輩(どうはい)じゃない。主従(しゅうじゅう)みたようだ。

逐句翻譯

- 1 | ^{せんせい}すると先生^{こうさん}このおれを降参^{かんちが}させたと疋違^{さつそくでんじゅ}いして、早速伝授^ししましょう。

哪知這位「大先生」竟誤以為我是被他折服了，忙不迭地便要傳授那「釣魚之道」。

【單字】

降参する 投降、認輸（此處指誤以為對方被說服） • 疋違い 誤解、搞錯

- 2 | おひまなら、^{きょう}今日^いどうです、いっしょ^いに行っちゃ。

他慇懃地相邀道：「閣下若有暇，今日便隨我們走一遭如何？」

【單字】

おひま 有空、閒暇 • いっしょに行く 一起去

3

でもとより^{しょぶんほう こうちよう かんが}処分法は校長のお考えにある事だから、^{わたし ようかい}私の容喙^{かざ}する限りではないが、

「雖說這處分之事全憑校長裁奪，本非老朽置喙之地，

【單字】

とより 原本、本來（表示事物的本質、根本） • 容喙する 多嘴插話、越俎代庖地開口（「容喙」表示插話干涉）

4

どうかその^{へん}辺をご^{しんしゃく}斟酌になって、なるべく^{かんだい}寛大な^{とりはらい}お取計を^{ねが}願いたいと思います」

「可還請校長體察這裡頭的曲折，儘量網開一面，從寬處理才好。」

【單字】

斟酌になって（しんしゃくになって） 體察／斟酌考量／酌情處理 • 寛大なお取計 寬大處理、網開一面的安排（「取計」表示處置、安排）

101 整段課文

Track 101



なるほど狸が狸なら、赤シャツも赤シャツだ。生徒があばれるのは、生徒がわるいんじゃない教師が悪るいんだと公言している。気狂（きちがい）が人の頭を撲（なぐ）り付けるのは、なぐられた人がわるいから、気狂がなぐるんだそうだ。難有（ありがた）い仕合せだ。活気にみちて困るなら運動場へ出て相撲（すもう）でも取るがいい、半ば無意識に床の中へバツタを入れられてたまるものか。

逐句翻譯

1

なるほど^{ためき ためき}狸が狸なら、^{あか}赤シャツも^{あか}赤シャツだ。

好嘛！狸貓是狸貓的做派，紅襯衫是紅襯衫的路數，一脈相承。

【單字】

なるほど 說起來確實、果不其然（表示確認某種判斷） • 狸が狸なら 狸貓就是狸貓（一丘之貉的說法，強調同類相伴） • 〜も〜だ ……也不例外、……也是同一路貨（強調同類）

2

生徒が**あ**ばれるのは、生徒が**わ**るいんじゃない教師が**わる**いんだと**公**言している。

這廝竟敢當眾大放厥詞，說學生鬧事不是學生不成器，倒全是我們這幫教書的不中用！

【單字】

～のは～んじゃない～んだ ……的原因不是……而是……（「んじゃない～んだ」強調否定前者、肯定後者） • **公言する** 公然聲稱、當眾大放厥詞

3

氣**き**狂**ちがい**が人の頭を**なぐ**り付け**つ**るのは、**なぐ**られた人**ひと**がわるい**き**から、**氣**狂**ちがい**が**なぐ**るんだ**そう**だ。

嘿！照他這一套歪理，瘋子在大街上砸人腦袋，倒成了挨揍的那位自個兒找晦氣，活該招來瘋子動手——這叫什麼混帳話！

【單字】

氣狂 瘋子、精神失常之人 • **撲り付ける** 猛力揮打、掄拳揍上去 • **なぐられた人** 挨打的人是錯的（荒謬邏輯的諷刺說法，用以嘲諷紅襯衫的謬論）

4

ありがた**し**難**あわ**い**なか**仕**なか**合せだ。

嘿！這可當真是天大的恩典吶！

【單字】

難有 感恩的、承蒙厚愛（此處帶強烈反諷） • **仕合せ** 幸運、幸福

5

活**かつ**氣**き**に**こま**みちて困るなら**うんどうじょう**で**すもう**と**なか**相撲でも**い**取る**なか**が**む**いい**い**、半ば無意識に床の中へ**しき**バ**ゆか**ッ**なか**タ**い**を入れられてたまる**なか**ものか。

若當真氣血太旺、精力過剩，合該去操場上摔幾跤相撲洩洩火才是！倒說什麼「出於下意識、沒自覺地」往少爺我被窩裡塞蝗蟲——這等混帳話也虧他編得出口！

【單字】

活氣にみちて困る 因為活氣旺盛而造成困擾（「みちて」表示充滿） • **相撲でも取るがいい** 去摔摔跤就好了（「でも」表示隨便選一種，「がいい」帶建議語氣）
たまるものか 豈能忍受、哪裡受得了（強烈反問，表示絕對不能接受）



「…そんな頓珍漢(とんちんかん)な、処分は大嫌(だいきら)いです」とつけたら、職員が一同笑い出した。「一体生徒が全然悪(わる)いです。どうしても詫(あや)ませなくっちゃ、癖になります。退校さしても構(かま)いません。…何だ失敬な、新しく来た教師だと思って…」と云って着席した。

逐句翻譯

- 1 「…そんな頓珍漢^{とんちんかん}な、処分^{しよぶん}は大嫌^{だいきら}いです」とつけたら、職員^{しよくいん}が一同^{いちどう}笑い出した^{わら}。

少爺我硬著頭皮補上一句：「……這等顛三倒四的處置，在下實在是打心眼兒裡厭惡得很哪！」話音剛落，在座教習竟一齊哄然笑了起來。

【單字】

頓珍漢 驢唇不對馬嘴、顛三倒四、荒唐 • 処分 處置、發落 • つける 補充、接續 (原句「つけたら」還原為辭書形，指補充說法)

- 2 「一体^{いつたい}生徒^{せいと}が全然^{ぜんぜん}悪^{わる}いです。どうしても詫^{あや}ませなくっちゃ、癖^{くせ}になります。退校^{たいこう}さしても構^{かま}いません。

「說到底，這群免崽子簡直是壞透了！若不狠狠逼他們低頭認錯，往後準得養成壞毛病、成了精、翻了天去。便是全給攆出學堂，少爺我也斷不心疼！」

【單字】

一体 說到底、究竟 • 癖になる 養成壞習慣、成了精 • 構わない 沒關係、不在乎

…何だ失敬な、新しく来た教師だと思って…」と云って着席した。

「……這算什麼話，就因為少爺我是新來的教習，便這般失禮、這般輕慢麼……」說完，便憤憤地坐回了位子。

【單字】

何だ 搞什麼、什麼嘛（表示不滿或驚訝的語氣） • 失敬 失禮、沒禮貌 • 着席
する 就座、坐回位子上

107 整段課文

Track 107



すると右隣りに居る博物が「生徒がわるい事も、わるいが、あまり嚴重な罰などをするとかえって反動を起していけないでしょう。やっぱり教頭のおっしゃる通り、寛な方に賛成します」と弱い事を云った。左隣の漢学は穩便説（おんびんせつ）に賛成と云った。歴史も教頭と同説だと云った。忌々（いまいま）しい、大抵のものは赤シャツ党だ。

逐句翻譯

すると右隣りに居る博物が「生徒がわるい事も、わるいが、あまり嚴重な罰などをするとかえって反動を起していけないでしょう。」

緊接著，坐在少爺我右手邊教博物的開了口，聲音軟塌塌的：「這學生胡鬧固然是不對，可若是罰得過重了，反倒可能引起反彈，此事恐怕不妥。」

【單字】

すると 於是、緊接著 • 嚴重 嚴厲、嚴重 • 罰 處罰、懲罰 • かえって 反而 • 反動 反彈、反作用、反骨

逐句翻譯

1 「私は教頭及びその他諸君のお説には全然不同意であります。

「在下對教頭及諸位方丈之高論，完全不敢苟同！」

【單字】

お説 適才的那番議論、宏論 • 全然不同意 斷斷不敢苟同、完全不同意

2 というのはこの事件はどの点から見ても、五十名の寄宿生が新来の教師某氏を輕侮してこれを翻弄しようとした所為とより外には認められんのであります。

「此一公案，不論從哪個角度瞧去，都只能認定一個道理：乃是那五十名住宿生輕侮新任教習某氏，蓄意加以愚弄作戲，別無他說。」

【單字】

どの点から見る 不論打哪兒瞧、從任何角度來看 • 新来 新來的 • 輕侮する 輕蔑、欺侮 • 翻弄する 戲弄、捉弄 • 所為 所作所為、勾當 • ～より外には認められない 除了……之外不予認同

3 教頭はその源因を教師の人物いかに求めになるようでありますが失礼ながらそれは失言かと思ひます。

教頭大人似乎將此事之根源，一股腦兒推在教習人品優劣上頭，怨在下直言，此論只怕太是失言了。

【單字】

源因 禍根、原因、根源 • いかん 如何、視乎何種情況（文語疑問詞，表示依據某條件而定） • 求める 尋求、歸咎（「お求めになる」為其尊敬語） • 失礼ながら 恕我直言、冒昧地說 • 失言 說錯話、失言



某氏が宿直にあたられたのは着後早々の事で、まだ生徒に接せられてから二十日に満たぬ頃(ころ)であります。この短い二十日間において生徒は君の学問人物を評価し得る余地がないのであります。軽侮されべき至当な理由があつて、軽侮を受けたのなら生徒の行為に斟酌(しんしゃく)を加える理由もありましょうが、何らの原因もないのに新来の先生を愚弄(ぐろう)するような軽薄な生徒を寛仮(かんか)しては学校の威信(いしん)に関わる事と思ひます。

逐句翻譯

1 某氏が宿直にあたられたのは着後早々の事で、まだ生徒に接せられてから二十日に満たぬ頃であります。

「某氏輪值宿夜，乃是剛到任沒幾天的事兒，與學生相處前後尚不足二十日吶！」

【單字】

宿直にあたる 輪值夜班、值宿 • 着後(ちゃくご) 到任之後、抵達之後(「着」表示到達，「後」表示之後) • 早々(そうそう) 剛……就、沒多久便(表示某事發生後緊接著另一事，強調時間極短) • 接する 接觸、照面(「接せられる」為其尊敬語形式) • 満たない 不滿、不足(「満たぬ」為其文語否定形)

2 この短い二十日間において生徒は君の学問人物を評価し得る余地がないのであります。

「在這區區二十天裡，學生哪有點眼力見兒，評得出人家的學問深淺、人品高下？說起什麼評價，簡直無從談起。」

【單字】

～において 在……之中、在……期間 • 評価し得る 能夠評價、能斷定出 • 余地がない 沒有餘地、不可能、無稽之談

請閱讀以下(1)至(2)的文章，然後回答問題。答案請從1、2、3、4之中挑出最適合的選項。

(1)

狸は例の通りもったいぶって、教育の生霊(いきりょう)という見えてこんな意味の事を述べた。「学校の職員や生徒に過失のあるのは、みんな自分の寡徳(かたく)の致すところで、何か事件がある度に、自分はよくこれで校長が勤まるとひそかに慚愧(ざんき)の念に堪(た)えんが、不幸にして今回もまたかかる騒動を引き起したのは、深く諸君に向って謝罪しなければならん。

しかしひとたび起った以上は仕方がない、どうにか処分をせんければならん、事實はすでに諸君のご承知の通りであるからして、善後策について腹蔵のない事を参考のためにお述べ下さい」

1

このときの校長のようすについて、最もよいものはどれですか。

- 1 自分の責任を認めておらず、すべて生徒のせいだとはっきり言い切っている。
- 2 自分の徳が足りないせいで事件が起こったと口では謝りながらも、結局は生徒の処分をどうするか会議で決めようとしている。
- 3 今回は自分の責任が重いので、生徒を処分せず、自分から校長をやめるつもりでいる。
- 4 事件の真相をまだ何も知らず、まず事実確認をしてから処分を考えたいと言っている。

關於此時校長的態度，下列何者最適當？

- 1 他並不承認自己的責任，明白說一切都是學生的錯。
- 2 他一方面口頭上說是自己德行不夠才會出事，但另一方面仍打算開會討論「要怎麼處分學生」。
- 3 因為這次自己責任重大，所以決定不懲處學生，而是主動辭去校長一職。
- 4 他對事件真相一無所知，只表示要先調查，再來決定處分。

解答 (2)

解題

► 解題步驟

● 鎖定範圍：兩段引號內校長自述全部。

● 分析文脈：

「みんな自分の寡徳の致すところ」「深く諸君に向って謝罪しなければならん」＝口頭上把責任往自己身上攬。

「しかしひとたび起った以上は仕方がない、どうにか処分をせんければならん」＝轉而強調「必須處分」。

「善後策について…お述べ下さい」＝邀請大家出「怎麼處分的方案」。

● 邏輯推理：

校長的話術是：「先自責一番，樹立『有徳之人』形象，再把焦點拉回到生徒處分上」。並沒有要自己下台，也沒有否定要懲處學生。

● 比對選項：

1. 與原文「自分の寡徳」「謝罪しなければならん」矛盾。
2. 同時包含「自責發言」+「要討論處分」兩層，完全符合。
3. 文中完全沒有暗示他要辭職。
4. 校長說「事實はすでに諸君のご承知の通り」，表示大家都知道發生什麼事了。

大師心法

遇到「一邊自責、一邊說『しかし…処分を』」這種轉折句，要把「前半＝姿態」「後半＝真意」拆開看，真正考點往往落在後半句的行動方向。

(2)

「私(わたくし)は教頭及びその他諸君のお説には全然不同意であります。というものはこの事件はどの点から見ても、五十名の寄宿生が新来の教師某氏(ぼうし)を輕侮(けいぶ)してこれを翻弄(ほんろう)しようとした所為(しょうい)とより外(ほか)には認められんのであります。……私は以上の理由で寄宿生一同を嚴罰(げんばつ)に処する上に、当該(とうがい)教師の面前において公けに謝罪の意を表せしむるのを至当の所置と心得ます」と云いながら、どんと腰(こし)を卸(おろ)した。

2

この文章からわかる山嵐の考えとして、最もよいものはどれですか。

- 1 事件の原因は、新しく来た教師の人物に問題があるので、生徒への罰は軽くすべきだと思っている。
- 2 生徒には悪気はなく、半ば無意識のいたづらだから、なるべく寛大に扱うべきだと思っている。
- 3 この事件は、生徒が新任教師をばかにしてもてあそんだ行為であり、学校の威信のためにも、嚴罰と公開の謝罪が必要だと思っている。
- 4 教師と生徒の関係をこれ以上悪くしたくないので、処分も謝罪も必要ないと思っている。

就這段文字來看，下列哪一個最符合山嵐的想法？

- 1 事情的起因在於新任老師本身有問題，所以對學生的處罰應該從輕。
- 2 學生沒有惡意，只是半無意識地惡作劇，應儘量寬大處理。
- 3 這起事件就是學生刻意羞辱、戲弄新來的老師，為了維護學校威信，必須嚴懲並公開道歉。
- 4 不想惡化師生關係，因此既不必處罰，也不用道歉。

解答 (3)

解題

► 解題步驟

● 鎖定範圍：山嵐發言中關鍵句。

● 分析文脈：

「五十名の寄宿生が新来の教師某氏を輕侮してこれを翻弄しようとした所為」＝明言「生徒側在輕侮、玩弄老師」。

「某氏が…二十日に満たぬ頃」「評価し得る余地がない」＝否定「老師有過錯」這個說法。「輕侮されれば至当な理由があつて…なら…しかし…何らの原因もないのに…輕薄な生徒を寛宥しては学校の威信に関わる」＝把錯完全放在生徒，認為不能寬縱。

「嚴罰に処する上に…面前において公けに謝罪…至当の所置」＝主張「嚴罰＋公開謝罪」。

● 邏輯推理：

山嵐的立場：

- 原因不在教師，而在生徒的輕薄。
- 如果這樣都不嚴懲，學校威信就受損。
- 最適切處理就是「重罰＋當面道歉」。

● 比對選項：

1. 與「教師に評価し得る余地がない」「原因もないのに…輕侮」相反。
2. 「半ば無意識」「寛大」是紅襯衫的論調，不是山嵐。
3. 完整涵蓋「輕侮」「翻弄」「嚴罰」「公けに謝罪」「学校の威信」。
4. 文中明說要「嚴罰に処する」與「謝罪」，不是不要。

大師心法

遇到長段發言時，先抓「主語＋動詞＋評價詞」三個點：

- 誰(生徒/教師)
- 做了什麼(輕侮/翻弄/嚴罰/謝罪)
- 說話者如何評價(威信に関わる/至当の所置)
- 把這三點組合起來，就能快速排除「責怪老師」「主張寬大」的干擾選項。